

令和8年度研究実施結果に係る事前評価結果

1. 日時： 令和7年9月25日(木) 9:30～15:15

2. 場所： 福岡県工業技術センター

3. 研究課題評価委員（敬称略）

仲 孝幸	公益財団法人 飯塚研究開発機構 テクニカルコーディネーター
藤本 潔	公益財団法人 北九州産業学術推進機構 産学連携センター 研究支援グループ統括部長
古川 勝彦	九州大学 学術研究・産学官連携本部 教授
高倉 剛	公益財団法人 福岡県産業・科学技術振興財団 産学コーディネータ
植村 聖	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 九州センター 所長

4. 評価結果： 事前評価 9課題（課題評価結果一覧(事前評価) 参照）

5. 講評(要約)

- 先進的な研究テーマでは、なるべく早く活用事例を出すことで県の優位性を確保できると思われる。2年間といったスパンに拘らず早急に成果を出し、企業支援へつなげられるよう頑張っていたきたい。
- ロードマップを用いた開発技術の位置づけの説明は、テーマへの理解を深める上で効果的であった。半分以上のテーマが AI 活用などものづくりの DX 化に関するものであったと思う。便利な技術も、その「使いどころ」がポイントになる。企業にとってのメリット／デメリットを考慮しながら、良い「使いどころ」を探るチャレンジを続けてほしい。
- 各研究所がそれぞれ得意分野で力を発揮し、県全体の産業発展につながる良い研究に取り組んでいる。AI が登場したことでセンターと企業の関わり方も変わりつつあるように感じる。AI を具体的に企業活動へ取り入れるための橋渡しとしての役割をセンターに期待する。
- チャレンジングなテーマが多い印象である。引き続き取り組むとともに知財化と独自技術の確立を目指してほしい。AI に関するテーマでは、研究成果を企業へどのように普及浸透させるかが重要である。企業が全てを自立して行えるようにする必要はない。個別の企業がどこまで実施する能力があるかをよく見極めながら、技術普及への粘り強い取り組みを期待する。
- 技術はボーダーレスである。産総研を含む各分野に強い外部機関と連携し、その成果を地域に還元することで地域を活性化できる。国内外を問わず、広く外を見て連携を深めてほしい。

以上